

うしく里山の会 広報誌

さとやま

No.101

2011年7月号

NPO法人 うしく里山の会

事務局 〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1
(牛久自然観察の森内)

TEL 029-874-6600 FAX 029-874-6812

E-mail u_satoyama@infoseek.jp

HP <http://u-satoyama.web.infoseek.co.jp/>



撮影 佐藤 11.6.14

自然を生かすには 年間の努力が！

アヤメ園受託事業 佐藤 輝雄

見事な開花を見せた牛久市観光アヤメ園

今年も「牛久市観光アヤメ園」の観光シーズンを迎えた。六月二十日前後が一番見頃の時期である。六月初め頃からポツポツとアヤメ園への来園者が見られ「花菖蒲の花はまだですか?」「いつ頃から咲くのですか?」と聞かれることが多くなつた。「なんで開花が遅いの!」何か私たち作業者が叱られているような気にもなつてしまふ。それほど皆さんの関心が多くなつてきたことでもある。

この頃に、千葉県からというバスツアーの一行が来られ「花はまだなの?」と残念そうな顔。目的地は銚田の「メロン食べ放題」であり、途中の行程に牛久の観光アヤメ園が組まれたようである。来年は素晴らしいアヤメ園を観るために、是非六月中旬頃に計画してほしいと添乗員の方にお願ひした。中には潮来のアヤメよりきれいとい聞いて来た人もいたようだ。

今年の生育状況だが、花菖蒲の花そのものは例年通りきれいに咲き誇つたが、株の成長が背が高いもの・低いものと不揃いであり、今少し全体的に見劣りする。要因としては株分けが遅れたこと(通常三年目に株分けが必要)や震災の影響(所々液状化現象が発生し田んぼに砂が吹き出していた)があるかもしれない。情報には連作障害も考えられるとあるが、いろいろ調査してみると連作障害に関する考え方も諸説がある。私たちももっと勉強が必要な時期に来たようだ。

昨年は、除草に追われ一面雑草に覆われた田んぼもあつたが、今年は早くから作業時間を延長して、どうにか雑草との追いかけてこも私たちが勝っているようである。花が終わった後は厳しい株分けの作業が待っている。暑さに負けないで来年のために頑張らなければ!。

牛久市役所のホームページに観光アヤメ園の写真等がたくさん掲載されているので皆さん是非見て下さい。



うしく里山の会には

個性豊かなプロジェクトが

たくさん活動しています。

先月はどんなことがあったでしょうか？

それでは紹介しましょう！

プロジェクト 活動報告



雑木林応援隊

飯田 雅俊

こんな森があってもいいかな

「早く起きなさい、今日は観察の森に行くのよ」
母さんの声に起こされる。休みの日なのに、いつもの時間に起こされる、なぜか母の声が凜としている。
昨晚、母が「自分の木を切りに行くのよ、あんた大丈夫、しっかりして頂戴」と言われていた。毎年、他の家族も一緒にそれぞれ
の木の下草刈りをおこなっていた。

父さんとは最後になってしまった、小六の下草刈りのとき。「この木も十二年おおきくなったな、お前もまだ小さいけど大きくなっ



たな」とわけにわからない事を言っていた。「あと三年たつとこの木も、お前ももつと大きく育っているだろうな、そのときはこの木を切り倒すんだ、男の子は今までの自分から、これからの自分へと区切りをつける時がある、それが十五歳だ、たのしみだなあ」、そうなのかなと今でも思っている。

牛久市の誕生記念植樹に申し込んで当たった木だという、妹のときも申し込んだかが当たらなかったらしい、母さんは「女の子はおませだから精神的にはあなたと同じ、だから兄弟の木」と言っている。

森に着いたら他の家族もそろっている、なぜか正装しているわけではないけれど全員きりつとしてい

る感じ。
森の人から説明を聞き、各々の家族にわかれる、初めは私がノコギリで切り始めた。これじゃいつになるのかな、

と想像していたら、森の人がチェーンソーでVカットしてくれた、反対側に回りまた切り始めてすこしたったら、こっちもチェーンソーをいれるかと水平に半分くらい切った、ここからは楔を打ち込むけれど、君がやりなさい、木が倒れ始めたら後ろに下がること。楔を差し込み大ハンマーで少しずつ打ちこんでいく、木の叫びが、見上げると冬枯れの木がゆっくりと視界を過ぎっていく、足に伝わる振動で何かが断ち切られたようにも感じた。

父の想像していたように大きく成長したかは分からない、言っていたはじめがこんな単純なことではないと思うが、すつきりした感じがした。

受験まったただなか、実力五〇%運五〇%の高校受験を少しでも実力UPさせなければととりあえず思う。

先日、応援隊の活動日に雑談の中で写真にある駐車場脇の土地の利用についてキャンプ場などの話もあると聞いた。その時にこんな森があってもいいかなと考え、想いを書いてみた。



観察の森、入口の空地に「こんな森作りたい」

街路樹

チー△街路樹20 受託事業報告

小野 正一

谷中・上野公園街路樹見学・研修会

六月十二日(日)に新緑の谷中・上野公園街路樹見学・研修会が行われました。参加者は七名。朝八時前、牛久駅出発。天気は曇。

日暮里駅を出て、谷中霊園へ。桜の名所で、ソメイヨシノの並木道はとも立派でした。最初に植物学の牧野富太郎博士の墓にお参りして、天王寺へ。この寺は都内有数の古刹で、沙羅双樹の樹があります。境内に入ると竹で囲われた樹があり、「娑羅双樹」の石碑には、「昭和三十七年三月 本堂建立之時 大谷ハナヨ植之」の文字が彫られていました。

「この樹が『サラソウジユ』だろうか」とMさん。沙羅双樹はインド原産の常緑樹で熱帯樹木のため、日本では温室でないと育たないというのが定説です。日本で聖木ゆかりとされるナツツバキ(シラノキ)とも違うようです。図鑑の絵と目の前の樹木、葉、実と見比べ、しばらくして「これはハクウンボクではないでしょか」とKさん。すぐにお寺の人に聞きに行きましたが、「このお寺では植物学的には違うのかも知れませんが、『娑羅双樹』と呼んでいません」という返答だった。お寺の人がそう言うのだからそれで良いことにしましよ。う。大面白話でした。



天王寺の沙羅双樹の木 小野11.6.12

スタジイの樹

がお墓いっぱい根を張っている。手で回したので、手を測ると約七m。巨木です。寛永寺を指して歩いてみると、「この樹は何だろう」とHさんが立ち止まる。幹が細く



カキに似た葉っぱ~何の木? 増田 11.6.12

木肌は緑色です。葉をみて、匂いをかぐ。「クスノキの若木ですよ」と樹皮ハンディ図鑑を見ていたMさんが話す。「牛久市内の成木、老木を見ているからなあ。こんな若い樹は初めてだよ」初めてづくしの研修会は楽しい。

寛永寺境内へ入ってすぐヒマラヤスギの大本が見えました。「台東区のみどりの条例」で指定された保護樹木という。次に天璋院篤姫の墓所をお参りした時、変な樹があった。根元は二本なのに幹の途中で合体して一本になって、苔むしている。「シラカシなのに変な樹だ」とMさん。上野公園の街路樹・公園樹、上野東照宮、不忍池を見て旧岩崎邸庭園へ。三菱財閥岩崎本邸として明治二十九年完成。園内には大きなイチヨウ、モッコク、サクラ、モミジの樹木がありお客さんを四季折々楽しませています。

珍しい樹、巨木、若木、そして名前不明の木もあり、天候に恵まれた素晴らしい研修会でした。企画計画、下調べ、資料作成された探検チームの皆様方に心より感謝いたします。



里山自然観察隊

秋山 侃

モニタリング調査報告 シダ類を中心として

市内城中町をコースとする毎月の里山モニタリングは二年目に入った。六月十四・十五日に六月度の調査を実施。天候は曇、若葉が美しく爽やかで、一年中で最も良い季節である。調査にはいつもの四人に加え、渡辺泰さんにも参加・指導して頂いた。

約3kmのモニタリングコース上には明るく開けた草原、密閉した森林や竹林、水田のあぜ道、屋敷林が覆う道路端や斜面など、光環境や土壌水分状態が異なる立地が含まれている。このため昨年一年間に出現して花を咲かせ、あるいは胞子を付けた草本は合計三百四十種程度で、このうちシダ類は三十種程度と見られる。今回は光や水分の環境によく対応していると思われるシダ類について報告する。なお、私はシダ類に特に詳しい訳ではないので記述に間違いなどがあれば指摘して頂きたい。日本の野生植物(平凡社2002年、岩槻邦男編)の「シダ」によれば、世界にシダ類は約一萬種が存在し、日本では三十四科六百三十種が同定されている。オシダ科百三十三種、イワデンダ科百八種などが種数の多い科である。市内には七十種から八十種のシダ類があるとされ(渡辺泰氏談)、昨年このうち約三十種を城中コース上で確認。

シダ類の同定は難しい。同定には、葉の形：単葉から三回羽状複葉まで様々、胞子囊群の分布や形状、並び方、色など、鱗片と呼ばれる毛状の形態や色、季節性：夏緑、冬緑、常緑などが有力な根拠となるが、図鑑と見比べても分からないことが多い。

その上、種間の交雑により図鑑にはない新種が現れたりする。城中でもイワガネソウとイワガネゼンマイの交雑によりイヌイワガネソウが見つかった。親はなかなか見つからない（渡辺氏談）。年月を経て人為を含めた環境の変化に伴い、親となる種が消滅したケースも多いようだ。しかしシダ類担当を仰せつかって調べているうちに、私はだんだんシダ類の多様性に興味を覚えてきた。

調査コースは立地環境に応じて区分されているが、どこにも現れるのがイヌワラビ、このほかオオバイノモトソウやベニシダがここでは常在度の高いシダである。これに対して特定の場所にだけ出現するものとして、明るくやや乾燥した草原にはワラビ、樹木に取り付くノキシノブ、放棄水田にはミスワラビ、薄暗い森の中のイワガネソウなどがある。このほか、昨年の調査ではリョウウメンシダ、コモチシダ、カニクサ、オオハナワラビなど特徴的なシダ類が毎回顔を

を見せてくれた。立地環境の違いだけでなく刈り払いや除草剤散布など人為的な影響も含めて、地域の植生の変化を長期的に見ていきたい。



種名確定のためのシダ植物の調査風景

巨木リサーチ2事業報告
戸塚 昌宏

「牛久の巨樹」

掲載写真の撮影・編集にかかわって

平成十八年度から三年間、「巨木リサーチ事業フェーズ1」で市内の木、百六十四本（七本は調査後伐採）を調査しましたが、写真グループ（G）は一本の木について、全景・花などに分けて撮影し、延べ千四百ファイルを登録しました。



二十二年四月、「牛久の巨樹」の発刊をめざし巨木編集委員会を設け、第一回編集委員会において登録ファイルの中から掲載画像を選定すると共に、再撮影した方が良いと思われる画像を選び、十二月までに撮影することになりました。

写真Gでは、市内を牛久・岡田・奥野の三地域に分けて、再撮影を分担することにしました。牛久地域（牛久町・城中町・遠山町）を臼井氏。岡田地域（中央三丁目・東猫穴町・下根町・中根町・上柏田・柏田町・結東町・岡見町）を宮澤氏。奥野地域（正直町・久野町・桂町・奥野町・奥原町・島田町・井ノ岡町）を戸塚が、それぞれ分担しました。各人が花の咲く時期や果実が成熟する時期を選び、また神社・寺院境内の樹木を再撮影する時は樹木に光が射す時間帯を選び撮影に当たりました

臼井氏はムクノキの成熟果実を撮影するのに大変苦労されたそうです。この実は手の届かない高さの所に成っている場合が多く、また野鳥が好きなため、

撮影しようと思うと野鳥に食べられており、野鳥との競争だったようです。

宮澤氏には、「牛久の巨樹」の地区別の仕切写真に掲載した牛久町八坂神社・柏田町柏田神社・正直町皇産霊神社の撮影をしていただきました。また宮澤氏には最終的な画像の修正等をしていただきました。戸塚の場合は、久野町観音寺境内のイチヨウの黄葉の撮影が印象に残りました。十一月中旬より三日おきに撮影に行き、二十四日に行った時、写真のように境内一面黄色い絨毯を敷き詰めた様に落葉していて素晴らしい光景でした。この木は幹周りが四・三m・樹高が三十八mもあり、樹高は市内の全ての巨木を含めて、最大の高さです。

二十三年一月二十五日の第十三回編集委員会を最後に「牛久の巨樹」の編集を終え、「協働事業報告書」と共に発行出来ることになり感無量です。

「牛久の巨樹」が牛久市の貴重な資料として、市内の学校・公共機関などに置かれ、市民の共有財産として認識されることを願っております。



黄葉に輝く巨樹 戸塚 10.11.24



親子農業体験講座
一般参加者 横山美晴

五月農業体験

たけのこ掘り・さつまいも苗植え・

じゃがいもの芽欠き

辺り一面草木が青々と茂り、初夏を思わせる季節となりました。そんな季節の旬の食材、たけのこ掘りの農業体験をします。しかし、竹林に着くと雨が降り出してしまいました。雨具等の用意をして来なかったの、「こんな中できるのかなあ〜濡れてしまうだろうなあ〜」と思いながら竹林の中へ入ってみると、生い茂った竹の葉で雨は全く入って来ず、みんな我先にとたけのこを探しました。

私達親子も十センチほど土から出ているたけのこを見つけシャベルをさしてみました。いくらやっても全然シャベルが入っていきません。たけのこは根がとても硬く縦横無尽に張り巡らされているので、私一人の力では無理だったようです。周りの方にも手伝っていただき、やっと私達も掘り出す事ができました。たけのこを掘る目安としては、根元にある赤いぶつぶつの部分が見えるまでとの事でしたが、なかなかそこまでは掘り出せず難しかったです。

掘ったたけのこは皆で分けて家へ持ち帰りました。たけのこご飯、春巻き、お味噌汁。色々な料理でおいしくいただきました。

その二週間後は、さつまいもの苗植え体験です。まず耕運機で畝を作る事



ができず、悪戦苦闘してしま

した。そうして作られた畝に均等間隔で溝を作り、子供達が握りしめたさつまいもの苗を一本一本丁寧に植えていったのです。その傍らでは、四月に植えたじゃがいもの種芋から芽が出て十センチほど伸びていました。一つの種芋から数本出ている芽の中で元気の良い二本を選び、他の芽は引き抜いてしまう。芽欠き作業も行いました。そうしないと葉の方に栄養が多く行ってしまい、じゃがいもの育ちが悪くなるそうです。「どの芽が元気かなあ？こつちの方が太いからこれを残そう！」と言う親子の声があちこちから聞こえてきます。



手頃のタケノコを探す子どもたち

私達家族の農業体験講座は二年目に突入しました。この講座では農作業の中で四季の移り変りを身近に感じる事ができ、また、親と子がふれあいに一緒に楽しむ事ができます。

今年もまたそういった時間を過ごす事ができ嬉しく思います。

今月号から、理事会・運営委員会の皆さんから「うしく里山の会」との関わり、エピソード・今後の「うしく里山の会」に望むこと・希望等を語ってもらうことにしました。第一回目は、初めてのこともあるため、広報担当の佐藤が担当します。次回から楽しみにしてください。

第一回目

理事 佐藤 輝雄

私と「うしく里山の会」の関わり

私が「うしく里山の会」に入会したのは約五年前のことである。それは、現役時代の〇〇会（約八十名）で、牛久自然観察の森に見学に行ったときだった。

うしく里山の会・坂代表から、「牛久自然観察の森とうしく里山の会」について詳しく説明がされた。その時に参加した同僚から「佐藤、牛久にもこんないい所があって素晴らしいな！お前もこのような活動に参加すべきだよ！」と言われたのがきっかけになった。

後に、早速、牛久自然観察の森に更に詳細の様子を聞きに行く。いくつかの活動グループを紹介され、ひと通り見学されたらどうかアドバイスを受ける。

牛久観光アヤマ園の管理活動に興味をもち、すぐにアヤマ園の活動日に見学に行くと、十名近くのメンバーが楽しそうに除草作業をしている。挨拶をすると「もしメンバーに入るなら責任者に話したら」と言われる。責任者の坂さんとは面識があったため次回から参加することになった。

これが「うしく里山の会」に入会したスタートであった。しばらくは新参者としてアヤマ園の作業に加わり、先輩たちに優しくいろいろと教えられて、

どうにかメン
バーの一員と
して認められ
ることになる。
その後、自

然に対する興味も深まり、「公益財団法人日本自然保護協会」の講習会にも参加して、「自然観察指導員」という資格も得た。全国各地から集まった受講者達とも交流ができ、いかに自然保護への参加者が多いかも知った。

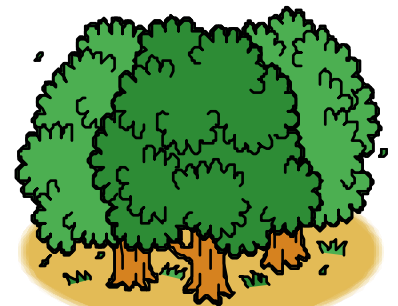
茨城県県南総合事務所林務課主催の「森林づくり地域リーダー養成研修」にも参加した。ここでは間伐等による生きた山林づくりを学んだ。

その中で刈り払い機やチェーンソーの講習も受けて、自然観察の森での活動にも多く参加することになる。植生管理ボランティアやエコアップに参加するメンバーも、現役時代にいろいろな経験や知識を持った方が多く非常に面白い。刈り払い機で多く繁った雑草やチェーンソーで雑木を伐採する瞬間の気持ち良さ。いつの間にかストレス発散の場にもなっている。

谷津田の保全、ホテル生息地の保全等、一段と面白くなるものである。何回かは市内の親子の皆さんを自然の場に案内する機会も多くなる。



観察の森で刈り払い機でアズマネザサと戦う筆者



今はこのような活動のつながりが「うしく里山の会」であり、その中にいくつかの活動Gがあつてそれぞれが充実した活動を進めている。

私は今、今後の「うしく里山の会」は、何かメインテーマを特徴とし持つて行けたらどうか。市民の方が「うしく里山の会」と聞くと「ああ、あの活動している団体だね!」。そろそろこのような印象を皆さんに持つていただくことが出来ないかなと思う。例えば牛久の里山、大きくは茨城の里山は「うしく里山の会」がつくっているんだね。里山といえは「うしく里山の会」だね。なんかこんな声が聞こえるように夢見るこの頃である。そして、私たちがこの夢を実現するために行動を続けていきたい。そして全国から頼りにされる「うしく里山の会」、子供たちの将来のためにも。



子どもたちに牛久の自然を語る筆者 撮影 金久

うしく里山の会会報

一〇〇号発刊記念に際して

坂弘毅

「会報・うしく」創刊から一〇〇号

うしく里山の会「会報うしく」が創刊から一〇〇号(六月号)を迎えました。この間、市民団体うしく里山の会の発足と同時に創刊し、八年半の間、里山の会の活動を記録して参りました。

第二十一号では、NPO法人の取得認証を知らせる「NPO法人うしく里山の会スタート」が巻頭を飾りました。第二十六号は「牛久市観光アヤマ園の受託事業が開始」。

第三十八号では、「牛久自然観察の森の指定管理者(第一期)がスタート」。

第九十九号では「牛久自然観察の森第二期指定管理者を獲得」と、里山の会の確固たる地位を築く歴史的な事業が相次いで立ち上がりました。

創刊以降、編集委員も新たな方々にきちんとパトナタッチされ、現在に引き継がれています。その間、発行の頻度を変えようとたびたび議論されてきましたが、一度の休刊もなく、記念すべき一〇〇号を迎えたわけです。

「会報さとやま」は、これからも読者から待ち遠しいと言われるような充実した楽しい誌面になるよう、努力して参ります。プロジェクトの活動報告、コラム、環境関連の貴重な情報等々、文字と共に写真などの投稿もお願したいと思います。また誌面づくりについてのご意見も賜りますれば幸いです。





牛久自然観察の森だより

チーフコーディネーター 齊藤 孝

夏期インターンシップ受け入れ

観察の森では今夏も学生インターンの受け入れを行います。六月末時点では、鳥取大学より一名、茨城大学より八名の受入を予定しています。いずれも農学部三年次で、卒業後に環境関連の就職希望を持つ学生が中心となっています。

インターンシップの期間は概ね一週間から二週間（授業単位で一から二単位）、児童向けサマースクールの運営補助やネイチャーセンター業務が主な内容となります。

今回のインターンの中には、中学二年生時に職業体験で観察の森に来園した事がある「リピーター」的な学生も含まれており、施設が地域の人材育成の場として重要な役割を担っている事を伺わせます。

インターンシップでは平日は主に観察の森の主催行事の補助が中心となりますが、土日のプロジェクト活動の応援にも時間ある限り派遣できますので、希望のあるプロジェクトの皆さんは観察の森までご連絡ください。お待ちしております。

【参考】最近三カ年の夏期インターンシップ受入校（順不同）

茨城大学、茨城大学大学院、鳥取大学、筑波大学、筑波大学大学院、日本大学、東京環境工科専門学校、国際自然環境アウトドア専門学校、大阪コミュニケーションアート専門学校



昨年の様子



結束町みどりの保全区

Ecoアップ作戦 齊藤 孝

うしく里山の会全体事業

里山保全ボランティア

「結束町みどりの保全区Ecoアップ作戦」

参加者募集のお知らせ

牛久市結束町の牛久自然観察の森に隣接する「牛久市結束町みどりの保全区」

の森林維持管理作業を行う「Ecoアップ作戦」では、地域の皆さんの協力のもと、下草刈りや除間伐、風倒木の処理等を行なっています。

活動には会員・一般問わず参加出来ます。

皆様のご参加お待ちしております。

七月の活動日時

一日（金） 午前九時～十一時半

十七日（日）午後一時～三時半

八月は夏休みとなり活動はありません。

集合 牛久自然観察の森ネイチャーセンター

一階倉庫前

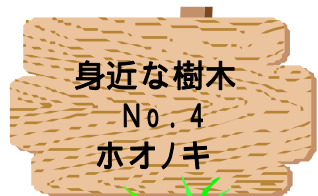
（予約不要／荒天時は中止

ホームページに情報掲載）

持ち物 長靴、軍手（長袖、長スボンで）

刈払機・チェーンソー使用は資格所有者のみ。

問い合わせ先 029-874-6600 担当：石神



身近な樹木 No. 4 ホオノキ

モクレン科モクレン属の落葉高木。北海道～九州の丘陵から山地に分布。県内では北部や山地に見られますが、県南には少ない。市内では斜面林に希にあり、所々に栽植されており、文化町のS家の屋敷には幹周二百十cmの古木があります。



ホオノキの葉と花

11.5.17

木の「ホオ」は漢字の苞（ホウ）で、むかし葉に食物を盛ったことが名前の由来だそう。材は良質で、下駄や楽器に使われています。

（村尾重信）

2011年 7月 NPO法人うしく里山の会 活動カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
					1 里山保全ボランティア 9:00NC クラブプロジェクト 13:00NC	2 親子農業体験講座 9:00畑
3 巨木リサーチ2特) 8:30市役所玄関	4 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	5 (休園日)	6 (休園日) 巨木リサーチ2特) 8:30ボランティアC	7 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P 森の畑 9:30畑	8	9 里山自然観察隊 (モニタリング里地調査) 9:00得月院P
10 雑木林応援隊 9:00ムジナ	11 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	12 森の畑 9:30畑 (会報等原稿不切)	13	14 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	15 クラブプロジェクト 13:00NC	16 親子農業体験講座 9:00畑
17 運営委員会9:00NC 里山保全ボランティア 13:00NC	18 (海の日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	19 森の畑 9:30畑 チム'街路樹20(受) 樹木・巡回管理 8:30市ボランティアC	20	21 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	22	23 巨木リサーチ2特) 8:30市役所玄関前 チム'街路樹20(受) 13:00市ボランティアC (交流会)
24 雑木林応援隊 9:00炭屋	25 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	26 森の畑 9:30畑	27 会報発送 13:00NC	28 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	29	30
31						

活動日は天候等により変更となる場合がありますので、最新情報はホームページ(トップページ)のお知らせ欄)をご確認ください。

〔凡例〕

森: 牛久自然観察の森
NC: 牛久自然観察の森ネイチャーセンター
P: 牛久自然観察の森駐車場
炭小屋: 牛久自然観察の森駐車場奥の炭小屋
畑: 牛久自然観察の森駐車場奥の畑
コジユケイ: 牛久自然観察の森コジユケイの林
観察舎畑: 牛久自然観察の森内観察舎前の畑

ムジナ: 結東町の雑木林(通称ムジナの里)

市役所: 牛久市役所本庁舎
ボランティアC: 牛久市ボランティア市民活動センター
中央生涯C: 牛久市中央生涯学習センター

アヤマ園: 三日月橋観光アヤマ園

(休園日): 牛久自然観察の森休園日
(受): 受託事業
(特): 特別事業



編集後記

この編集後記は何を書こうかと悩んでいたとき、ユネスコ世界自然遺産に「小笠原諸島」が登録決定とのニュースがあった。日本では一九九三年十二月・屋久島(鹿児島)、白神山(青森、秋田)が登録され、二〇〇五年七月・知床(北海道)の登録に続いて四番目となる。

小笠原諸島は一五九三年、信濃国深志城主「小笠原長時」の孫貞頼が発見したとされているが、現在は否定されている。

小笠原諸島は「東洋のガラパゴス」ともいわれ、カタツムリ等の陸産貝類一〇六種のうち一〇〇種が固有種とされている。オガサワラオオコウモリ・クロアシアホウドリ・オガサワラノリス・アカガシラカラスバト・ハハシマメグロ等の動物やムニンツジ・ムニンノボタン等の植物の固有種が絶滅の危険にある。家畜として持ち込まれた外来種のノヤギやネコ等が繁殖して動植物などを荒らしている。また、グリーンアノール(外来種のトカゲ)がグアム島等からの物資に紛れ込んで島内で繁殖して、固有種の昆虫を捕食しているため、島の昆虫が絶滅の危険に陥っている。昆虫が少なくなれば昆虫によって運ばれる花粉などが減り植物の繁殖にも影響を及ぼす。植物のアカギ(東南アジアの常緑樹が薪炭用に持ち込まれた)も島の植物に影響を及ぼしているようである。

うしく里山の会がつくば市の「森林総合研究所」から説明員として委託されている「つくばちびっ子博士・森の展示ルーム」に、この生態系の影響を詳しく展示されているのが、この夏も多分開催されると思うので是非見学に訪れてほしい。

佐藤輝雄記

広報委員会からのお知らせ

次号2011年8月号の発送は7月27日(水)午後1時からです。お手伝いいただける方はネイチャーセンターまでお越しください。(尚、発送日・時間につきましては都合により変更する場合がありますので事前に御確認いただければと思います)よろしく願いいたします。